

かすみがうら市議会産業建設委員会会議録

令和2年8月11日 午前9時56分 開 会

出席委員

委員長	古橋智樹
副委員長	佐藤文雄
委員	矢口龍人
委員	岡崎勉
委員	久松公生

欠席委員

なし

委員外委員

なし

出席説明者

都市産業部長	鈴木芳明
観光課長	貝塚裕行
観光課長補佐	鈴木 薫

出席書記名

議会事務局 青山哲士

議 事 日 程

令和2年8月11日（火曜日）午前 9時56分 開 会

1. 開 会
2. 事 件
 - (1) 株式会社かすみがうら未来づくりカンパニーの決算報告について
 - (2) その他
3. 閉 会

開 会 午前 9時56分

○古橋智樹委員長

委員の皆さんにはお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
ただいまの出席委員は4名で、会議の定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。
それでは、ただいまから産業建設委員会を開きます。
次に、書記を指名します。議会事務局、青山主任を指名いたします。
本日の日程は、会議次第のとおりであります。

○古橋智樹委員長

それでは、早速本日の日程事項に入ります。
初めに、株式会社かすみがうら未来づくりカンパニーの決算報告についてを議題といたします。
説明を求めます。

○都市産業部長（鈴木芳明君）

本日は大変ご苦労さまでございます。
今の案件でございますが、かすみがうら未来づくりカンパニーの決算報告について本日の委員会でご説明をさせていただく内容でございます。
また、8月25日の全員協議会でもこの委員会を経て説明を予定しておりますので、よろしく願いいたします。
それでは、担当の貝塚課長より説明しますので、よろしくお願いいたします。

○観光課長（貝塚裕行君）

観光課の貝塚です。よろしくお願いいたします。着座で説明をさせていただきます。
それでは、資料に基づきまして決算の内容と説明をさせていただきます。
まず、資料の1ページ目でございます。
こちらは、かすみがうら未来づくりカンパニーが行っている事業の一つのサイクリング事業の内容となっております。
その前に、この資料の前段でございますが、事業全体の利用者は前年比105.7%の増という記載をさせていただきますが、こちらが事業全体の利用者といまして、令和元年度が3万3013人で行いました。前年が3万1229人ということで、105.7%となっております。
次に、下の表の部分ですが、サイクリングの事業です。
こちら、全体としまして、ライドクエスト事業が61人、レンタサイクルのほうが1,000人で、合計しますと1,061人となりまして、前年と比較しますと188人、15.1%の減少という結果でございました。

こちらの減少の要因といたしましては、レンタサイクル、こちらにつきましては、前年度よりほぼ横ばい、若干伸びているという状況でございますが、ライドクエスト事業、こちらについては経営健全化を進めるという観点がございます、令和元年度については交流センター1階のかすみマルシェ事業、こちらに注力をするということで、ガイドツアーを含むイベント版だけの実施ということになったものでございます。

また、3月にはライドクエストイベントも予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響で中止をしたという内容になってございます。

次に、資料の4ページのほうをお願いいたします。

[「4ページ」と呼ぶ者あり]

○観光課長（貝塚裕行君）

4ページです。

今説明をさせていただきましたサイクリング事業の決算の内容です。

こちらは、利用人数の減少によりまして、売上高といたしまして、こちらにあります括弧書きが前年、2018年、平成30年度になりますけれども、その上の184万4119円が令和元年度になります、比較しますと73万8123円の減となっております。

そういった状況ですが、令和2年度、今年度におきましては新型コロナウイルスの影響がございますが、感染対策を徹底した上でイベント版に加えて、今年度は一昨年も実施しておりました果樹のシーズンになる秋以降に通常のプログラムのほうも実施したいというふうに考えているところでございます。

戻りまして、また2ページのほうをお願いいたします。

こちらは、レストランを含めましたかすみキッチン事業になってございます。

全体といたしまして、レストランが1万3961人、バーベキューが512人ということで、合計1万4473人のご利用がございました。前年と比較しますと255人、9.6%の減少という結果でございました。

減少の要因といたしましては、昨年、やはり今年度も同様でしたが、7月に大分天候不良があったと、それから10月には台風も来たということで、レストラン、バーベキューともに共通する要因となっております。

また、レストラン事業につきましては、前のシェフが退社したということで、一時期ちょっと休業していたということもございます。それと、3月以降については新型コロナウイルスの影響もあって減少ということになってございます。

次に、また4ページのほうをお願いいたします。

かすみキッチン事業の決算でございます。

こちらは利用人数のほうは減少をしておりますが、キッチン事業といたしましては、令和元年度についてはキッチンカーを活用したイベント等への出店、これを積極的に行ったということで、売上高自体は前年と比較しますと75万3830円の増となっております。

令和2年度、今年度におきましてはやはり新型コロナウイルスの影響がありますので、キッチンカーによる大規模なイベント等への出店、これは見込めない状況となっているところでございますが、テイクアウト商品の展開、それから広域的な連携、こういったこと、土浦市にあります星野リゾートさんとの連携などを今後展開することによって実施していきたいというふうに考えているところでございます。

次に、3ページのほうに戻っていただければと思います。

こちらは、交流センター1階のマルシェ事業でございます。

こちらにつきましては、利用者数が合計で1万7424人となりまして、前年と比較すると3,609人、26.1%増加という結果でございました。

増加要因といたしましては、まず環境面といたしまして、つくば霞ヶ浦りんりんロード、こちらがナショナルサイクルートの認定を受けたということによりましてサイクリストが増加しているということ、それから、こちらの交流センターをサイクルピットとして活用する中で、知名度が年々向上してきているということでの利用者増がございました。

また、地域産品等の販売についても季節ごとの飲食メニューなどを提供したり、お土産の商品、こういった点数、商品数の増加によりましての購買意欲の高まり、それからキャッシュレス決済、これを導入したということで利便性が向上してきているものと考えてございます。

次に、4ページのほうをまたお願いいたします。

かすみマルシェ事業の決算でございます。

こちらは、利用者の増加を受けまして、売上高につきましても、前年比で459万6688円の増となっております。

今年度、令和2年度におきましては、売場レイアウトをさらに工夫しまして、取扱商品を増加させる、それから、先ほど季節ごとに変えているとってございました飲食メニュー、こういったものをセット販売ということで売上げの向上を目指すというところ、それから、プライベート商品を外販ということで交流センター以外の場所、例えば道の駅であるとか、東京にありますIBARAKI sense、それから市内のスーパー、そういったところでの取扱いを始めるということで考えております。

次に、同じ4ページのほうにまたお願いをいたします。

こちらの決算状況でございますが、売上げ全体の部分になります。

こちらが、全体で5569万7973円となりまして、前年度と比較しますと848万5249円の減、率でいいますと13.2%の減少となっております。利用者の部分については1,784人、5.7%の増となっております。

こちらの決算の部分の減少となった要因につきましては、前年度と比較しまして受託事業の収入が減少したということによるものでございます。平成30年度については子どもミライ学習の新商品製作業務委託のほか7つの業務についての委託はありましたけれども、令和元年度につきましては、歩崎地域の観光振興アクションプランのプロモーション委託のほか2業務ということで、こちら減少の要因となっております。

次に、売上高の下の部分の営業外収益でございますが、こちらは62万8030円となっております。前年比で18万7534円の増となっております。主に交流センターに設置している自動販売機の販売手数料となっております。全体としましては5632万6003円で、前年と比較しますと829万7715円の減となっております。

その下の部分、売上げに対する経費の部分でございますが、まず食材、それから商品仕入れに係ります売上原価、こちらが1807万8250円で、前年と比較しまして306万5032円の増となっております。主にマルシェの商品の仕入れの増になってございます。売上原価の4ページの下、左側の下の表の一番上の部分です、売上原価1807万円分が食材というか商品の仕入れ、売上原価となっております。

その下の部分、販売費及び一般管理費、こちらは主に人件費、広告宣伝費、水道光熱費、そういった経費でございますが、こちらが4446万4902円で、前年と比較しまして1292万5823円の減となっております。

次に、その下の部分、営業外費用でございますが、こちらは主に支払利息等ということで、31万6054

円を計上してございます。

最後に、一番下の部分、法人税等の部分ですが、こちらは21万1000円となっておりまして、経費の合計が6307万206円となりまして、前年と比較しますと954万4737円の減でございます。

事業全体の営業損益につきましては、右の一番下でございますが、674万4203円という営業損失という結果でございます。前年と比較しますと、前年がそこにある括弧の部分で799万1225円の損益ということでございますので、損益額については124万7022円減少をしているというところでございます。

かすみがうら未来づくりカンパニーの営業損益につきましては、昨年9月の決算のときには61万程度の営業利益を目標とするということで報告をしてございましたが、かすみマルシェなど営業利益を計上している事業もありますが、かすみキッチン、レストランの経費が黒字化できないということによりまして、全体としては今回の営業損失ということで、結果になったものでございます。

令和元年度、昨年度の決算上は営業利益としての計上はできる結果となっておりますが、利用の状況を見ますと、交流人口の増加、それから地域資源の活用による域外からの消費の増加、こういったものは着実に伸びているものというふうに考えてございます。

次に、資料の5ページのほうをお願いいたします。

(岡崎 勉委員 入室)

○観光課長（貝塚裕行君）

資料の5ページは、今年度の事業計画となっております。

今年度は、新型コロナウイルスの終息が見通せない中ではございますが、体験型プログラム等の構築に努め、感染症対策を講じた上で取組を進められる、そういった事業を展開していくということ、それと霞ヶ浦広域サイクルーズということで、土浦港からの船を利用したサイクリストの活用、それと新たにできました霞ヶ浦歩崎棧橋の船舶の停留、それと古民家「江口屋」への宿泊、こういった新たな附属施設の活用によりまして来訪客の増加を呼び込みたいと、それとやはり、つくば霞ヶ浦りんりんロードがナショナルサイクルルートに認定されたということで、こちらの利用者が前年比で1万2000ほどサイクリストの来訪が伸びているということがございますので、これらの方を積極的に呼び込めるようにマルシェのメニューの工夫及びピット率を向上させる、そういった取組を進めたいというふうに考えているところでございます。

こちらの事業計画のほうでは、サイクリング事業については新型コロナウイルスの影響等もございまずので、前年の実績との比較で見ますと69万程度の減額で見込みを立ててございます。それから、かすみキッチン事業についても1,076万程度の減、それから、かすみマルシェ事業についても343万円の減ということで、今年度の事業計画を見込んでございます。

また、新規に令和2年度から交流センターの附属施設ということで、歩崎棧橋、古民家「江口屋」、これらの管理運営が指定管理ということで追加になったということでございますので、指定管理料の増を見込んでございます。

また、古民家の収入も含めた指定管理収入については増額を見込みまして、総事業費といたしまして6472万3625円、経費のほうは6316万1787円を見込んで、令和2年度については155万6837円の営業利益を出すということを目指すということで計画をしてございます。

次に、資料の6ページをお願いいたします。

こちらは、令和2年3月24日に作成をいたしました第三セクター等経営健全化方針に基づく取組状況ということでございます。

取組状況の内容でございますが、前回この状況を報告させていただいたのが令和2年2月下旬ということでございましたので、その報告させていただいた内容から変更した部分としましては、令和元年度の決算が確定したということでございますので、それらの数字の部分を変更している内容となっております。

まず、真ん中ほどにあります財政的リスクの状況でございますが、3つ目のマークの部分ですが、こちらが平成30年度の債務超過額として627万1000円で、令和元年度の営業損益が先ほど説明させていただきました674万4000円ございましたので、令和元年度決算時における債務超過の額は1301万5000円となっております。

次に、7ページのほうをお願いいたします。こちら、7ページのほうに法人の財務状況となっておりますが、令和元年度の純損益が下の表の一番右でございますが、674万4000円となっております。この当該純損益額につきましては、前回、令和2年2月の際には大体見込みとしまして783万9000円の損失という見込みで報告をしてございましたが、令和元年度の結果が出まして、こちらはそのときの見込みよりは109万4797円の損失が抑制できているというような結果でございました。

説明は以上となります。

○古橋智樹委員長

以上で説明が終わりました。

ただいまの件につきまして、ご質問等がございましたら挙手の上ご発言をお願いいたします。

○佐藤文雄委員

それぞれ、ライドクエストとかレンタサイクルとかレストラン、あとマルシェ、こういうのは目標というのは持っているのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

毎年、前年度の決算、今回のような決算報告をさせていただいたときには目標値は立ててはございません。その数字的には売上げといたしまして目標を立ててございました。サイクリング事業が事業費としましては310万円程度、かすみキッチンが2,980万、かすみマルシェが1,350万、その他が1,300、約50万程度ということで、うちの売上げの総額としては6095万2484円を見込んでございました。

○佐藤文雄委員

来客とか、そういう利用者の数の目標は立てているのですかということです。金額、これも前年度との比較が載っていますけれども、これは予算そのものは分からないんですよね、これはね。予算に対する決算というのは分からないよね、これね。

○観光課長（貝塚裕行君）

4ページの令和元年度決算状況の中にあります括弧書きで入っている数字が前年度、平成30年度の決算なので、予算というか計画したときの数字としては、これの表はちょっと作っていないです。

○古橋智樹委員長

ほかに。

○佐藤文雄委員

予定というか、予算があって決算があるわけだから、予算と決算の対比が出ないと分かりにくいよね、前年比だけではね。やっぱり予算に対して決算がどうだったのかというのがあると思うのですよね。そこでどうしてもマイナスになった要因は、例えば3月はコロナの問題で全く売上げがなかったとかという、そういう分析が出てくると思うのですよね。やっぱり前年度の決算はこうで、今年度の決算はこうですというよりも、やはりここにも事業計画があるように、この事業計画は令和元年の事業計画はある

ということですね、ということはね。

○観光課長（貝塚裕行君）

はい。

○佐藤文雄委員

それと、対比もやはり分かるようにしておいたほうがよろしいじゃないかなと思います。

○観光課長（貝塚裕行君）

分かりました。じゃ、そちら元年度の計画と実際の決算の対比の表も加えたいと思います。

○佐藤文雄委員

それと、何かキッチンカーをいろんなイベントに出して、収益を上げたというようなことを言っていないませんでしたか。

○観光課長（貝塚裕行君）

キッチンカーのほうのレントを積極的に行ったということで、出店日数としましてはトータルで 179 日ほど営業をしております。こちらの売上げが合計で約 470 万弱ほどございました。こちらのほうがかすみキッチン事業の売上げが伸びている部分となっております。一番大きかったのが東京都方面のイベントにも積極的に昨年、令和元年の前半、秋口ぐらいまでに参加したときの売上げ、こちらが大分大きかったというところでございます。

○佐藤文雄委員

179 日間が出店、キッチンカーを稼働させて 470 万円ぐらいの売上げを上げた、これが大きいと。その中でも都内に行ってイベントをやって、その収益とおっしゃいましたけれども、179 日のうち、どのくらい都内で出店をして、売上げは 470 万のうちのどのくらいだったのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

ちょっとその割合というか、東京都の日数までは今手元に資料は用意してございませんが、一番大きかったのは令和 2 年 1 月に東京ドームで開催したイベント、こちらが売上の的には一番大きかったというところでございます。

○佐藤文雄委員

だから、それ何日なのかは今分からないということですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

東京ドームのほうは 10 日間でございますが、そのほかの都内イベント、全ての合計数は今現在ちょっとまとめた数字を持ってございません。申し訳ありません。

○佐藤文雄委員

だから、そういうのもちゃんと出しておいってくださいよ。

それと、聞くところによると、この都内のイベント、キッチンカーですね、そこに職員が一緒に行ってサポートしていたという話を聞いていますが、それは事実ですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

都内で行ったイベントに参加した場合には、市のプロモーションも兼ねて行っているということで、職員のほうは市のプロモーションとして市のパンフレット等の配布、そういった対応についていったということがございます。

○佐藤文雄委員

ですから、市の職員が動員されていたと、それはあくまでもかすみがうらの PR、プロモーションという名前なのでしょうけれども、やっていたということですよ。ということはお手伝いもしていたと

いうことも言えると思うのだけれども、こういのは人件費という扱いはされていませんよね。実際に何人ぐらい、何人工がここで働いたのかというのやはりそのバックボーンとしてあると思うんだよね。そういうのも教えてもらいたいのですけれどもね。

○観光課長（貝塚裕行君）

今現在、そこまで整理した資料は持ち合わせてございませんので、その辺は……。

実際、東京都区のほうの詳細については鈴木の方から説明させていただきたいと思います。

○観光課長補佐（鈴木 薫君）

実際に、東京ドームのふるさと祭りのほうは私が初日から3日目の日曜日に行ってきたのですが、そのときには一応ふるさと祭りについて初めての出店だったというのもあったので、私実際に行って、現場のリサーチも含めて行っていますので、お客さんがかなり多かったというのと、どの辺のお客さんがかすみがうら市に興味を持って声をかけてくれているのかというのを含めて、ついてはリサーチも含めて、私1人、1日だけ、東京ドームのイベントは10日間のうち1日だけ同行で行かせていただいて、それ以外は未来づくりカンパニーのほうで、例えば売り子のバイトを雇ったりとかして全てやっていますので、ふるさと祭りに関しては1日、1人だけ同行しています。

それと、あと大きいイベントで出店したのは豊洲の東京オリンピックの関連イベントということで、これが2日間行っていて、それは職員、2日間参加したんですけれども、2日間とも2人で延べ4人同行ということで、ここは物販ブースとして未来づくりカンパニーが出店していただいていたんですが、一応市のほうにお声がけをいただいているというのがあったので、市のほうのPRブースという形で、例えば映像の放送であるとか、そういったものとかチラシ配りを中心に職員が同行してやっていったということで、リサーチも含めてという形だったので、豊洲のイベントのほうはそれで2日間。

それと、東京タワーのちょうど真下のところでのイベントがございまして、これは北関東エリア、茨城、栃木、群馬、3県が一体となったイベントとして参加をしております。これについても2日間出店ということで、1日2名ずつ、2日間、延べ4名、職員のほうを配置しております。これについても県のほうが主体となって行われたイベントということで、市のほうも同行してチラシ配り、それからPRブースを設けておりましたので、そういったところの活動を主にやっていたということで、どちらかというと売り子としてのお手伝いというのはほとんどなくて、PR活動のほうを主にやっていたということがありました。

ただ、お店を運営する上で当然、休憩時間とか、あとはトイレに行くとか、そういったところがありましたので、そういったところは適宜お手伝いという形で一時的にお店の店番をするということはあるかと思いますが、それについては業務をやりながらということですので、未来づくりカンパニーのお手伝いというよりはPR活動を主体としてやっていた中の一環だということでご理解いただければと思います。

○佐藤文雄委員

パラリンピック関係のそこでのイベントの物産ブースに出す。それから東京タワーのイベント、これ北関東、県が主催していたということですので、こういうのも私たちは分からないのだよね、報告されていますかね。これ、具体的に今言ったことを表にしてまとめて出していただけませんか。

○観光課長（貝塚裕行君）

それでは、この資料に表示して、イベント等をまた追加したいと思います。

○古橋智樹委員長

ほかに。

○矢口龍人委員

各事業別で客単価はどのぐらいになっているのかと、あと、この収支比率というのは各事業ごとには出せないのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

客単価のほうは、今、表としては作っていないので、ただ、整理したものは会社のほうでは持っていると思いますので、それを整理すれば出せるとは思います。

○矢口龍人委員

これ、もう一つ出していただけますか。

○観光課長（貝塚裕行君）

はい。じゃ、もう1つ。客単価と、もう1つが……

○矢口龍人委員

収支比率。

○観光課長（貝塚裕行君）

じゃ、収支比率のほうも加えて整理をして、見せる形とします。

○矢口龍人委員

決算では、非常に重要な部分だと思うんだよね、その部分は。だって、そうでしょう。だって、客単価にしても前年同期比率で見てさ、お客さん増えましたといっても客単価が上がっていないとかね、ただ下がっているというだけじゃ内容的にしっかり精査にもならないし、あと各部門ごとの収支というのが当然、マルシェなんかは仕入の価格、比率が高いのだから、原価率というのは全然違うと思うし、また、かすみキッチンのほうは原価率が低くて利益が多いという、そんな現象が表れていると思うので、そういうところも出していただかないと分からないんだよね、その流れというのが。ただただ金額でどんどんと……

〔「決算状況の内訳よ」と呼ぶ者あり〕

○矢口龍人委員

もう中身が分からないと、そのまま続けていっていいのか、それとも令和2年度は改善するというなら、その辺を見直さないと正式な結果が出ないと思うんだよね。いかがですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

それでは、収支比率や客単価のほうは未来づくりカンパニーさんのほうにちょっと聞いてみて、ある程度整理できるかどうかを確認して、お出しできる、整理できる部分についてはこういった資料の中に載せていきたいというふうに思います。

○矢口龍人委員

それと、これ財務状況とあるけれども、累積赤字は幾らになっているのか。

○観光課長（貝塚裕行君）

6ページにあります令和元年度決算のところで記載してあります1301万5000円が累積となっています。

○矢口龍人委員

平成30年のところ627万で、今年が674万……。

○観光課長（貝塚裕行君）

失礼しました。元年度が674万4000円、こちらを加えまして、令和元年度末現在で1301万5000円です。

○古橋智樹委員長

じゃ、私いいですか。

○佐藤文雄副委員長

どうぞ、委員長。

○古橋智樹委員長

ここで、副委員長と交代させていただきます。

○佐藤文雄副委員長

はい。

○古橋智樹委員

ライドクエストということで利用人数の報告があったのですが、ライドクエストとはという認知度はどのようにこの決算で推移をもってご理解されているのでしょうか。

○観光課長（貝塚裕行君）

これは、事業開始当初から行っている事業でございまして、当然、会社のホームページもそうですし、あと利用された方へのリピートするためのSNS等のご案内、こういったこと、それから各自転車を取り扱っている会社等へもライドクエストのチラシを配布したりということで行っておりまして、結果として参加者数が減ったのは昨年度の減少というのはどちらかということと天候に左右された部分が大いかなということ、アナウンス的には昨年度はイベントだけの実施だったのでありますけれども、アナウンスはある程度はできて認知度、周知度も少しずつではありますが、上がってはいるとは思っております。

○古橋智樹委員

要は、ライドクエストといってもぴんとこない人がいっぱいいると思うんだよね。

[「私も」と呼ぶ者あり]

○古橋智樹委員

私も、説明しろと言われたって説明できないね、お恥ずかしながら。ライドクエストという言葉は自転車やっている人ならもう大概の人が知っているとかね、日本全国でも通用する商品名なのかどうか存じませんが、その辺に立ち返っていただいて、また事業を見つめ直していただきたいなと思います。

ほかのことでお尋ねしますが、マルシェ部門の決算でインターネットによる販売、需要を見れば、今後の事業計画も含めて大事になってくるかと思うんですけど、決算ではどのぐらいインターネットによる販売があるんですかね。

○観光課長（貝塚裕行君）

マルシェの事業に含まれますECサイトの売上額は、令和元年度は詳細まではちょっと出てはいたんですけど、約30万程度の売上げ……

[「うん、30万」と呼ぶ者あり]

○観光課長（貝塚裕行君）

30万程度です。

[「割合は」「マルシェだよ」「マルシェん中で」と呼ぶ者あり]

○古橋智樹委員

これ、マルシェ事業は1,600万なのでしょう。その中の70万だろ。

○観光課長（貝塚裕行君）

4 ページの令和元年度決算状況でマルシェ事業 1657 万 2903 円でございますので、そのうちの約 30 万ということで、割合的には 1.8%程度でございます。

○佐藤文雄副委員長

いいですか、再質問しますけれども、こういうコロナの状況もありますから、もうちょっとこういうインターネットの販売のブロードキャストが足りないのかなと思うのですけれども、今後の計画はそのあたり強化するとか、計画はなしにそのままなのですか。宣伝費用が、例えば我々が SNS を見ているそういうものが全然飛び込んで来ないのですよね。インターネットであれば、別にかすみがうら市民とか 20 キロ圏内の人じゃなしに、そういうものに興味ある方にはもっと宣伝が伝わるブロードキャストが、広告経費がそんなばらばらな額じゃなくて宣伝できると思うのですけれども、そういうふう強化する事業計画というのはあるのでしょうか。

○観光課長（貝塚裕行君）

EC サイトでは、現在自社で構築したサイトだけの販売となっておりますので、今年度これからはなりますが、他のサイトということで、県の物産協会であるとかそういったところ、それから生協さんとか、ほかいろいろ交渉して行って販売するサイトの数を少し増やしていこうということで計画はしているところであります。

○古橋智樹委員

ですから、もともとお客さんを持っているサイトへの売り込み、もちろんお客さんをいっぱい持っていれば、それだけ手数料は高いかもしれませんが、その辺の予算に見合った利益、そういう部分も強化していただきたいなと申し上げて、ほかのことをお尋ねしますが、……

○佐藤文雄副委員長

はい、どうぞ。

○古橋智樹委員

キッチン部門でキッチンカーの先ほどの出店のことがありましたけれども、イベントを主体と、かすみがうら庁舎でたまにお見かけすることありますけれども、事業所とか、このコロナの状況だと、よく大型マンション地帯なんかへの出店なんかテレビで見かけるのですけれども、そういったイベントだけじゃなくて、もうちょっと効率のいい営業的なキッチンカーの使い方とか、そういうものは今後計画としてあるのでしょうか。

○観光課長（貝塚裕行君）

今現在は、そこの部分については計画というものは特に持ってはおりません。

一昨年、キッチンカーの稼働として、例えば土浦市駅前の図書館前で販売したり、ケーズデンキのスタジアムも行ったりとかと、これまでいろいろな経験をしてきた中で、出店するイベントが重なっている場合には利益率の高いほうを優先してという中でやっております。

今、委員長のほうでおっしゃられたそういった場所へ、マンションとなるかどうか分からないのですが、キッチンカーの活用として、今のコロナの中でもできるような形で検討はしてきています。

○古橋智樹委員

キッチンカーのご依頼受付というのは、常にインターネットで門戸を開いているのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

今現在は、そういったところの募集はしていません。

○古橋智樹委員

そういう、いいですか、必要性はあまりないなという判断ですかね。人手のほうも 1 日出ずっぱり

なったりするでしょうから、今、幾つかの答弁からすると必要性はあまり役所のほうではカンパニーとの話の中でないというふうに見受けるのですけれども、それにしてもやっぱりあの車だって安い買物じゃないですから、費用対効果を出すためにも私は必要だし、インターネットに常に「ご相談受け付けます」みたいなね、実際需要はあると思うんですよ。月に2回ぐらい来てくださいますとか、大きい事業所でも中にはあると思うので、実際私も相談もらったのを伝えていませんけれども、ありますよ。だから、そういう需要、コロナのこういう状況だからこそ、門戸はインターネットで出しているんじゃないですかね。

○観光課長（貝塚裕行君）

では、そういった需要もあるということで未来づくりカンパニーさんのほうにお伝えをしまして、この辺のホームページ上の取扱い等も今後検討に加えていきたいと思います。

○古橋智樹委員

じゃ、最後。あと今度、志度崎の公園に遊具は来年度ですか、次年度以降に設けるような話を聞いているのですけれども、そうなれば江口屋の利用、さらには栈橋の利用ということで新しいお客さんが来るのですけれども、やはりいろんな関連の会議の中で子どもをもっと盛り上げるようなイベントが欲しいということで、遊具はその一つなのでしょうけれども、カンパニーとは関係ないのかもしれないけれども、水族館の前の池に、前の課長のときから、もうしばらく前のことを言っているのですけれども、ザリガニを釣れるようにウッドデッキでも二、三十メートル、蓮が植わっている部分にでも設けて、貸出しは別に水族館に任せてもいいけれども、出資はカンパニーでやるとかね、あれをセンヨウで許可するのは市役所でしょうけれども、玉造でも金魚釣りがはやっているということもあるぐらいですから、あとは今、蓮の収穫が始まったのでしょうけれども、ザリガニなんかやっぱり有害として出てくるでしょうから、そういうものをうまく請け合っていて、子どもたちが親子で楽しめると思うので、そういうものもぜひ検討していただきたいなと。

しばらくザリガニ釣りをあそこでやったらどうだと言っているのだけれども、あまり誰も乗ってくれる人がいないのですけれども、自分でふかふかの出資でも何とかファンドをもらってやってやってもいいけれども、ちょっとそこまで体力ないから、やっぱりあの近くにいる人たちの時間の有効活用という部分でもいいんじゃないかなと思うんですけれども、どうですかね。

○観光課長（貝塚裕行君）

歩崎公園全体として、子どもたちと来て楽しめるようなものは例えば遊具であるとか、そういったものは今後考えていきたいというところでございます。

それと、ザリガニについては初年度、平成28年度に交流センターでビニールプールにザリガニを入れて、ザリガニ釣りということをやったことはございます。やはりザリガニ釣りというのは子どもたちにも喜ばれるようなものですので、子どもたちが楽しめるものの一つとして、ただ水族館の前であれば指定管理者である水族館でやるのか、センターを管理している未来づくりがやるか分からないですが、そういった子どもたちを楽しませるものの一つとして検討していきたいと思います。

○古橋智樹委員

じゃ、佐藤さんが言って。交代しますと言いますか。

○佐藤文雄副委員長

交代。ここで委員長を交代します。

○矢口龍人委員

歩崎の栈橋の有効利用ということで、どういうふうな要望を考えているのか、詳しく説明いただけま

すか。

○観光課長（貝塚裕行君）

今現在は、棧橋のほうは先ほど説明したサイクリングの関係では霞ヶ浦広域サイクルーズというのを株式会社ラクスマリーナが主体としてやっています、こちらは新型コロナの関係でこれまでちょっと中止だったのですけれども、10月からは再開してやるということですので、そういったときに土浦港から出て、歩崎の棧橋に寄港して、それから行方へ行って、潮来へ行くということで、サイクリストを呼び込むということでサイクルーズを始めるというところがございます。

それと、今現在、毎週日曜日に観光帆引き船を乗車人員半分の人数でやっていますけれども、その随伴船の乗降場としての活用をしております。

それと、霞ヶ浦環境科学センターのほうで行っている霞ヶ浦湖上体験の子どもたちのツアー、こちらのほうも活用していただくということで予定をしているところでございます。

○矢口龍人委員

サイクルーズというお話ですけれども、自転車に乗らないで船に乗って、ずっと歩いちゃうわけですか。その辺のところは普通サイクリングというのはずっと自分で走るのだと思って、どうしてその船に乗って歩くのかなとちょっと疑問なのですけれども。

○観光課長（貝塚裕行君）

やはり、自転車に乗る方も例えば、1周ぐるっと百何十キロという自信がない方もいらっしゃると思いますので、その方は船で例えば歩崎の棧橋までだと、そこに置いて、あと残り20キロを自転車で戻る。もしくは潮来まで行って、百何十キロの半分、それ未満の距離を降りてから稲敷回りでもかすみがうら回りでも、それで帰ってくるということで、やはり湖上の遊覧という楽しみとサイクリングの楽しみと、そういった両方を味わえるということで企画をされているものだと思います。

○矢口龍人委員

実際、そういうふうな利用をする人というのは結構いるのですか。企画しているのは分かりますけれども、利用する人。

○観光課長（貝塚裕行君）

こちらは、最少で10人の参加があれば入港するということなのですけれども、やはり、つくば霞ヶ浦りんりんロードの利用者が増えてきてからは、それと土浦駅のプレイアトレがオープンしてからは少しずつは増えているというふうには聞いております。

○矢口龍人委員

当然、料金は発生するでしょうけれども、そういう料金体系なんていうのはどういうふうになっているのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

料金のほうは、例えば、土浦港から歩崎棧橋まで乗りますと船代金が500円ということです。

○矢口龍人委員

これは、ちゃんとそういうのを作ってありますもんね、そういうの。こういうのがあるよっていう比較ね。

○観光課長（貝塚裕行君）

一応、こういう体系のことはホームページ上とかネット上ではこういったチラシのほうを作っています、あとは市役所の窓口、観光の窓口のほうにはチラシは置かせていただいております。

【「料金書いているの」と呼ぶ者あり】

○観光課長（貝塚裕行君）

料金がこちらに入っています。500円です。

○矢口龍人委員

500円で10人だと5,000円だよ。それで船会社は営業できるのですか。どこか例えば、市とか県のほうから補助金とか何かが出たりなんかするのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

これは、霞ヶ浦広域の土浦市、潮来市、行方市、かすみがうら市、それと茨城県、こちらのほうで負担をしている部分がございます。

○古橋智樹委員長

関連いいですか。

○佐藤文雄副委員長

委員長と副委員長交代します。

○古橋智樹委員

今の矢口委員の棧橋の件の関連でご質問したいのですけれども、原則は鍵がかかっている状態で棧橋に出られないのですけれども、一般の方はあそこに来て、外から堤防から堤が見えるだけじゃなくて、あそこに行ってみたいという方はいると思うのですよね。写真撮りたいとか、もしかしたらいいアングルがあるかもしれませんし、そういう需要に対して門戸を開くという話は説明ではなかったのですけれども、そこで例えばインスタグラムとか、そういうSNSで、こういうタグをつけてくださって原則アップしていただければ無料ですよみたいな、そういうのが月に一、二回あるとかね、写真家の方が写真を撮りたいのであれば、何か帆引き船の操業のときに合わせて無料開放するとか条件つけてね、そういうアイデアはカンパニーさんをはじめ、担当課のほうでお考えはあるのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

やはり、今現在は今いただいたエリア等は考えているものではないので、これから一般的に通常は土浦港から出たヨット、クルーザー、そういった方の係留というのでも連絡を受けて行うということになっていますので、活用の一つとして、そういったところも利用の状況を見ながら考えていきたいと思えます。

○佐藤文雄副委員長

いいですか。

○古橋智樹委員長

じゃ、副委員長、交代します。

○佐藤文雄委員

ちょっとこれに関連して、これ今かなりいろんな利用方法が出されたと思うのですが、実際にどのくらいをイメージしているのかな、よく分からないんですよね。例えば今、ヨットだとか、何、カヌーなんかで発着できるようになっているわけですよね。そうするとそのときは申し込むのですか。申込みをして、そこに発着する、離発着できるように借りるということになるのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

利用前に申請をいただいて、堤防から連絡橋が上がって渡れないようになっているので、連絡を受けて電話なり、申請上げてもらうという形で連絡橋を下げて、鍵を開けてという形で現在は対応しているところです。

○佐藤文雄委員

そういうのを含めて、湖上体験ツアーだとかそういうサイクリストを呼び込むやり方のサイクルーズですか、そういうことが今全部出されていますけれども、こういう企画そのものを大体いつどういうときにやるかだとか、月ごとにこういうことをやりますよという、そういう企画書というのはまだ作っていないのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

サイクルーズについては、もう年間の実施日数が決まっています。それと、霞ヶ浦体験ツアーについても実施日は決まっています、ただこちらにも募集人員が集まらないとやらないということもあるとは思いますが、実施日のほうはある程度、環境科学センターさんとラクスマリーナさんのほうで協議しながらスケジュールは決まっています。ちょっと今、湖上体験ツアーのほうは実施日の把握はしていませんけれども、8月22日に来るということは確認していますけれども、年間を通じての分まではちょっと把握してございません。

○矢口龍人委員

栈橋利用なのだけでも、市としては具体的にこういう事業を今年度やるのだというのがあるのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

市単独ということではないのですが、新しくできた例えば古民家の中の体験プログラムの一つとして栈橋を使って漁の見学をしたりだとか、カヌーやボートを体験するのに栈橋のほうを使うとかというようなことを現在のところは考えているというところですよ。

当初については、例えばあゆみ祭りのときに実施をしていたEボートレース大会であるとか、そういったものは栈橋から離発着してということを考えていましたけれども、その辺が今年の場合、ちょっと中止になったということもございまして、現在はこれから古民家の中の体験のプログラムで使っていこうということで考えております。

○矢口龍人委員

そうすると、栈橋の管理運営部門というのはマルシェじゃなくて、キッチンの……

〔「未来づくりカンパニー」と呼ぶ者あり〕

○矢口龍人委員

カンパニーのほうに委託というか、指定管理しているのですよね。

○観光課長（貝塚裕行君）

未来づくりカンパニーのほうに指定管理として委託しております。

○矢口龍人委員

そうしますと、かすみキッチンのほうへいろいろ、例えばそういった予約とか何かも全部一括で窓口になるようになるわけでしょう。

○観光課長（貝塚裕行君）

今現在、栈橋の利用の受付は未来づくりカンパニーで行っております。

○佐藤文雄委員

決算と事業計画の中で、ブランディング等受託事業収入と指定管理料の収入が随分違っていますよね。こういうものの内訳がどういふことで増えたのか、今言った栈橋も含めて指定管理が増えたということになると思うのだけれども、それはこれでは分からないんですよ。

○観光課長（貝塚裕行君）

ここの指定管理収入という項目については、昨年、令和2年第1回定例会で指定管理料のほうが新た

に指定管理する施設として古民家と棧橋というのが加わったということで、指定管理料のほうを増額したということがこの中に入っています。そのほかに古民家の宿泊者の収入であるとか、そういったのを見込んだ合計額というふうになっています。

それから、ブランディング等の受託事業収入については毎年内容等は若干違いますが、市のほうからも委託した事業ということで、例えば、学校教育課のほうでやっている子どもミライ学習、子どもたちが考えたアイデアを出した商品の商品化、そういったものの受託と、そういったもののブランディング収入ということで入っていくので、詳細がなくて合計額だけの記載とさせていただいております。

○佐藤文雄委員

だから、内訳は後で出してよ、これ。

○観光課長（貝塚裕行君）

はい。じゃ、こちらも詳細、この合計の内訳は整理したいと思います。

○矢口龍人委員

それなら、一緒に一般管理費のほうもこれも少し分けてもらいたいんだよね、これただ1本じゃなくて。これじゃ全然分からないもんね。

○観光課長（貝塚裕行君）

では、こちらの販売費及び一般管理費のほうももう少し内容を1本ではなくて、中身を整理したものを資料として提出したいと思います。

○古橋智樹委員長

ほかに。

じゃ、最後に。交代します。副委員長と交代させていただきます。

○佐藤文雄副委員長

はい。

○古橋智樹委員

株主総会、役員等ではどういう今回はご意見があったのですか、具体的にそこをピックアップした説明がなかったものですか。

○佐藤文雄副委員長

貝塚課長、株主総会の件だって。

○観光課長（貝塚裕行君）

本年度は、株主総会のほうは6月29日に開催をしておりますが、その中では昨年、健全化方針ということで、そのときにいろいろ協議した内容がございますので、今年度の総会においてはそれらのときにいろいろお話に出た部分として、例えば損失のあるレストラン部門、こういったものをもっと効率的なものに努力してほしいということ、新たにできた古民家と棧橋、これらを有効に連携をさせて運営を少しでも上げるということ、そういったところのお話をいただいております。

○古橋智樹委員

はい、分かりました。

交代。

○佐藤文雄副委員長

じゃ、交代します。

○古橋智樹委員長

ほかに質問ございませんか。

(発言する者なし)

○古橋智樹委員長

では、ないようでございますので、本件を終結いたします。

次に、そのほかでございますが、ここで都市産業部長より発言の申出がありますので、発言を許します。

○都市産業部長（鈴木芳明君）

今期、第3回定例会に補正予算を計上させていただき予定となっておりますスポーツ振興事業補助金を活用した霞ヶ浦アクティビティコミッションにつきましてご説明のほうをさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○観光課長（貝塚裕行君）

それでは、霞ヶ浦アクティビティコミッションについて説明をさせていただきます。

それでは、資料に基づきまして説明させていただきます。

まず、資料の1ページになります。

こちら、霞ヶ浦アクティビティコミッションでございますが、こちらは地方公共団体、それからスポーツ団体、観光産業、スポーツ産業、こういった民間企業、それらが一体となりまして地域活性化に取り組む組織、いわゆる地域スポーツコミッションとして、令和2年6月24日にかすみがうら市、それから観光産業としてかすみがうら市観光協会、企業、観光地域づくり法人としてかすみがうら未来づくりカンパニー、それからスポーツ産業としまして一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン、この4団体の構成で設立をしたものでございまして、名称、地域スポーツコミッションですが、名称は霞ヶ浦アクティビティコミッションとして設立をしたものでございます。

霞ヶ浦アクティビティコミッションの目的といたしましては、観光とスポーツ、これを組み合わせた取組といたしまして、アウトドア体験、レジャー、それからスポーツのイベント、ツーリズム、そういったものを通じて地域に人を呼び込み、地域を活性化するというのを目的としているものでございます。

地域スポーツコミッションにつきましては、スポーツ庁において平成27年度から活動支援ということで行っておりまして、令和元年10月の段階で全国には118の地域スポーツコミッションが確認をされているところでございます。

本市において、霞ヶ浦アクティビティコミッションを設立するに至りました経緯でございますが、平成30年度に歩崎地域観光振興アクションプランが策定されました。このプランの中で地域資源を生かしたプログラム、それからサイクリングと地域資源を結びつけるプログラム、そういった観光商品の開発を推進していくということで計画がされております。

また、つくば霞ヶ浦りんりんロード、こちらがナショナルサイクルートの認定を受けるということと併せまして、栈橋、古民家など新たな施設もオープンがあったところでございますので、こういった新たな施設を含めた地域資源を積極的に活用するために、こういった観光、スポーツ、地域産業が連携した霞ヶ浦アクティビティコミッション、これを設立する取組を推進していこうということになったものでございます。

次に、2ページになります。

霞ヶ浦アクティビティコミッションで行う事業でございますが、今年度、令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症が拡大しているところではございますが、密を避けるということで屋外のアクティビティの需要、こういったものが高まっている点、また、一度に多数が参集するイベントではな

く、ウイズコロナの時代に対応した取組として感染症対策を徹底した常設型のイベント、それからツーリズム、こういったものとして霞ヶ浦アクティビティ創出事業といたしまして、主に5つの取組を計画しているものでございます。

次に、資料の3ページでございますが、今後の方針といたしましては、霞ヶ浦アクティビティ創出事業の実施に当たりましてはスポーツ庁で所管をしております地方スポーツ振興費補助金のスポーツによる地域活性化推進事業を活用して実施することを予定してございます。スポーツによる地域活性化推進事業につきましては、令和2年6月29日に交付申請をいたしまして、8月上旬に内定をいただいているところでございます。ですので、先ほど部長からも説明させていただきましたが、令和2年市議会第3回定例会の際に補正予算のほうの提案をさせていただきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○古橋智樹委員長

以上で説明が終わりました。

ただいまの件につきまして、ご質問等がございましたら挙手の上ご発言お願いいたします。

○佐藤文雄委員

補正予算案というのは何。

○観光課長（貝塚裕行君）

これは、先ほどのスポーツ庁の地方スポーツ振興費補助金の歳入と、霞ヶ浦アクティビティコミッションへの補助金としての計上、定額補助金ですので、歳入同額を歳出で計上させていただきたいと考えているところでございます。

○佐藤文雄委員

歳入は、スポーツ庁あたりからの国のあれなんだけれども、歳出は何、どこの歳出というのか。歳出項目は何という項目なのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

歳出のほうは、霞ヶ浦アクティビティコミッションへの補助金とする予定でございます。

○佐藤文雄委員

はい、項目。

○古橋智樹委員長

予算の歳出の款項目はどこですかという説明、続けてください。

○観光課長（貝塚裕行君）

商工費の中のサイクリング推進事業という事業がございますので、そちらの事業のほうに計上する予定でございます。

○佐藤文雄委員

そうすると、それも未来づくりカンパニーとも関係があるのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

未来づくりカンパニーにつきましては、DMO企業ということで参画をしてございますが、メインはスポーツと観光の組合せということですので、今回立ち上げに当たりましては、サイクリスト、いわゆるサイクリングと、あと観光地を巡るとかそういったことの組合せでございますので、構成員には未来づくりカンパニーも入ってございますけれども、主としては地方公共団体、かすみがうら市が主となってプログラム、イベント等の実施をしていくものでございますが、あくまでこの4つの構成団体がそれ

ぞれの持分、役割を提供してアクティビティコミッションが事業を行っていくということになります。

○佐藤文雄委員

何かよく分からないな。

○古橋智樹委員長

じゃ、ひとつ。

○佐藤文雄副委員長

いいですか。委員長と交代します。

○古橋智樹委員

ほかの先例なんかは、やはり生涯学習課のスポーツ振興課みたいところが担当課でやっているところなんかもあると思うのですが、うちがあえて観光にウエートを置いてやるというのは今言った生涯学習課と観光課の仕事の量、人員とか、そういうのを協議して、あと自転車の観光をまだまだ盛り上げたいということだから、観光商工課がスポーツ庁関連の国庫金であってもやるということで、そのあたりの経緯を補足説明していただきたいのですけれども。

○観光課長（貝塚裕行君）

今、委員長がおっしゃったようにスポーツ庁の所管ではございますが、これからもサイクリングというのを盛り上げていこうというのがありますが、あとは今年、新型コロナということがありまして、密にならないような屋外のアクティビティを、それから近距離の移動というのがどちらかということこれから活性化してくるということで、本市の場合にはこれまでもサイクリング事業をやっておりますけれども、そういった事業を生かして、コロナの影響を受けないこういったイベントは積極的に実施していきたいという思いがありまして、立ち上げ自体はスポーツの中でも今回はサイクリングというところに着目して、観光課のほうで実施をまずしていきたいというふうに考えまして、うちの所管ということで立ち上げたところです。

○古橋智樹委員

土浦とかほかの自治体はどういう状況なのですか。

○観光課長（貝塚裕行君）

今のところ、茨城県内では立ち上げたところはございませんので、近隣等の状況はちょっと取ってはございません。

〔「いや、やっていないって、ほかのところは」「かすみがうらが初めてなのですか」と呼ぶ者あり〕

○古橋智樹委員

土浦があれだけ自転車に投資している形の中で、やっぱり一言、課長がもうちょっと土浦と、あとは県と相談はしたのかどうか、ちょっと補足説明いただきたいのですけれども。

○観光課長（貝塚裕行君）

今回は、具体的に土浦市、それから茨城県のほうと協議をした上で設立をしたというところではございません。今回、地域スポーツコミッションということで複数の自治体にまたがる場合もあるとは思いますが、今回うちのほうで設立したのは単一地域の行政主体型ということで、どちらかということサイクリングと市内の観光を結びつけるということがメインの業務ということで、今回は単独地域のスポーツコミッションということで立ち上げ、設立をしたものでございます。

○古橋智樹委員

私は、質問したのはね、観光ということになれば、やはりお金を最終的には落としてくれるという構図ですから、自転車の需要を幾ら、右肩上がりかもしれないけれども、地元だけのターゲットでない

ので、やはり広域的にお客さんの集客が必要だということで、こういうアイデアをやるときはそういう要望書は相談すべきだなというふうに心配して申し上げたので、ただ、今後はそういうものも柔軟に相談するけれども、でも、本来ならば立ち上げて予算措置する前にいろんな絡みもあるわけですから、連携は取ってほしいなというふうに申し上げて、私は質問終わります。

○佐藤文雄副委員長

じゃ、委員長を交代します。

○古橋智樹委員長

ほかにございますか。ないですか。

(発言する者なし)

○古橋智樹委員長

それでは、ご質問等もないようですので、本件を終結いたします。

これで執行部の皆様には退席をお願いいたします。

ご苦労さまでした。

(執行部 退席)

○古橋智樹委員長

暫時休憩いたします。 [午前11時21分]

○古橋智樹委員長

会議を再開いたします。 [午前11時21分]

○古橋智樹委員長

以上で本日の日程事項は全て終了いたしました。そのほか委員の皆様から何かございますか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○古橋智樹委員長

ないようでございますので、以上で本日の産業建設委員会を散会いたします。

お疲れさまでした。

閉 会 午前11時21分